

災害対策車両操作訓練実施概要

I. 東濃・木曽防災対策協議会を対象とした操作訓練

日時： 平成24年7月25日(水)及び26日(木) 13:30～15:30

場所： 長野県木曽郡上松町野尻地先 北股床固工群付近

対象車両： 無人化バックホウ、排水ポンプ車 各1台

訓練対象： 一般社団法人 東濃・木曽防災協議会 社員

参加予定： 25日(水) 東部支援隊
26日(木) 西部支援隊、木曽支援隊

※ 一般社団法人 東濃・木曽防災協議会 社員
西部支援隊：4社
(株)吉川組、(株)藤本組、(有)木曽ハイウェーサービス、井戸建設(株)
東部支援隊：11社
恵中建設(株)、セントラル建設(株)、板垣建設(株)、阿木土建(株)、(株)梅田組、
宮島建設(株)、(株)鳴海組、(株)加藤工務店、(株)吉川工務店、落合土建(株)、
(株)中島工務店
木曽支援隊：3社
奥田工業(株)、大宗土建(株)、木曽土建工業(株)

II. 管内市町村職員等を対象とした操作訓練

日時： 平成24年7月 27日(金) 13:30～15:30

場所： 長野県木曽郡上松町野尻地先 北股床固工群付近

対象車両： 無人化バックホウ、照明車、排水ポンプ車 各1台

訓練対象： 多治見砂防国道事務所管内市町村職員
中部地方整備局職員(ダム砂防技術研究会)
多治見砂防国道事務所職員(施工技術研修)

※ 管内11市町村
岐阜県(多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市、坂祝町、御嵩町)
長野県(上松町、南木曽町、大桑村)

※上記 I・II の訓練については、大雨警報発令時及び滑川の増水時は訓練を中止します。

操作訓練場場所 案内図(広域)



昨年の実施状況

国土交通省では、火山噴火に伴う土砂災害や集中豪雨や地震による大規模土砂災害時等の緊急対策用として、各種の災害対策車両を配備・保有しています。多治見砂防国道事務所では、大規模土砂災害時等において災害対策車両の円滑な運用を行うために、当事務所と「災害又は事故における緊急的な応急対策の支援に関する協定」を締結する一般社団法人 東濃・木曽防災対策協議会の社員の方を対象とした災害対策車両操作訓練を実施しました。

実施日：平成23年8月24日(水)・25日(木)

会場：長野県木曽郡上松町 上松町公民館及び滑川流路工右岸

対象車両：分解型バックホウ(遠隔操作式)・照明車・排水ポンプ車

参加者：16社 34名



～ 訓練参加者の声 ① ～

昨年の可児・御嵩の集中豪雨時出動や、東日本大震災の支援における災害対策車両の活躍を見せて頂き、災害対策車両の必要性と設備・機能について改めて認識することが出来ました。操作訓練においてはリモコン操作のバックホウ訓練をさせて頂き、初めてで慣れていないこともあり上手く行くはずありませんが貴重な訓練が出来たものと思っております。

～ 訓練参加者の声 ② ～

分解型バックホウ、排水ポンプ車、夜間照明車というかなり実践に近い形で訓練が出来、充実した訓練プログラムだったと感じました。夜間照明車は前回操作した経験がありましたが、今回の訓練時にはスムーズに操作できない場面もありましたので、今後とも定期的にこのような訓練を継続して、いざという時に備える必要があると思いました。



～ 訓練参加者の声 ③ ～

この訓練は、とても重要だと思います。私は、平成22年6月に中部技術事務所にて排水ポンプ車等の操作訓練を受けました。そして平成23年3月14日第1陣として東北に派遣され排水ポンプ車や照明車の操作を行う復旧活動に参加しました。実際、訓練を受けていなかったら何も操作できず足手まといになってしまうところでした。少しでも機械を扱い基本操作を習得しておけば、緊急時の対応が出来るということを実感しました。少しでも多くの関係者が訓練を受ける機会があれば、緊急時に適切な対応が出来るようになるのではないかと感じます。



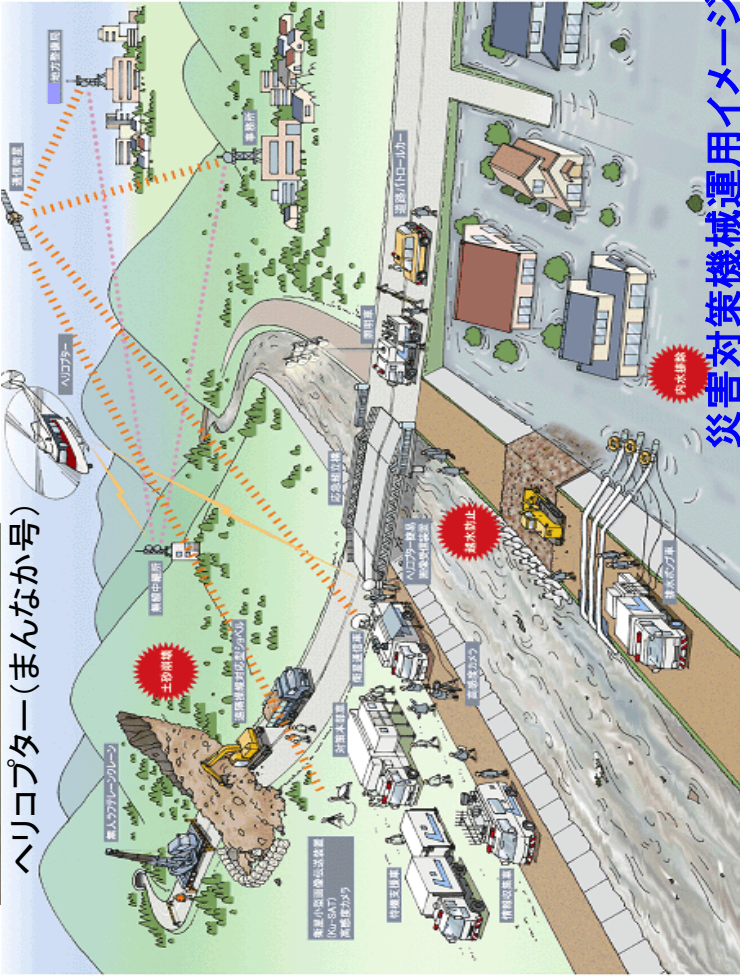
多治見砂防国道事務所では、このような操作訓練等を通じて、万が一の大規模土砂災害等が発生したときに迅速な応急復旧活動ができるようにしていきます。

多治見砂防国道事務所は、地域の発展と安全・安心を守るお手伝いをしています。

中部地方整備局管内(中部5県)の主要事務所に配備済



リモコン式
バックホウ



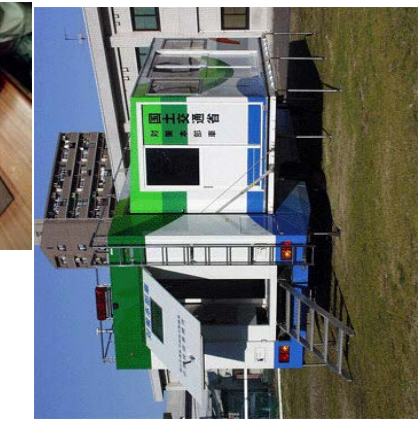
災害対策機械運用イメージ

ヘリコプター(まんなか号)



排水ポンプ車

別添-5



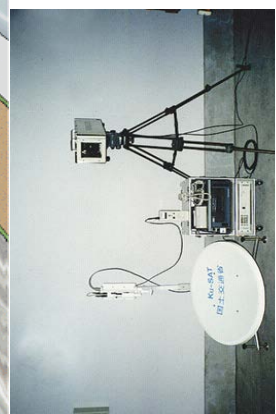
対策本部車



応急組立橋



衛星通信車



Ku-SAT(当事務所を含む)全ての
の事務所に配備済み



橋梁点検車



照明車(瑞浪国道維持出張所 保管)



H23 台風12号の河道閉塞で活躍した！

分解型バックホウ (1.0m³, 遠隔操縦式)

災害現場へ空輸でき、無人化施工が可能です。

災害により道路が寸断、制限がされた現場にバックホウを分解し空輸・陸送が可能です。リモコン操作にて安全な場所から災害復旧を行います。カメラを搭載し、リアルタイムに作業状況を映像提供します。

■特徴

- 13ブロックに分解ができ、空輸ができます。
- 車載カメラで撮影した映像を見ながら、遠隔操縦ができます。



遠隔操縦による崩落土砂の撤去



空輸状況(H23台風12号奈良県にて)



■仕様

車体寸法：全長10.12×全幅2.99×全高3.17m

運転免許：車両系建設機械 運転技能講習
(整地・運搬・積込み用及び掘削用)

操縦方法：遠隔操縦および搭乗操縦

標準バケット容量：1.0m³

登坂能力%(度)：70(35)

使用燃料：軽油(タンク容量 520L)

■主要装備品

遠隔操作装置：特定小電力無線
実用距離 150m

カメラ装置：特定小電力無線 カラーCCD
実用距離 150m